

# 博物館等におけるアイヌの人々の遺骨及びその副葬品の 保管状況等に関する再調査結果（改訂版）

令和4年7月  
文化庁

## 1. 調査の目的

平成28年11月に取りまとめた調査以降の博物館等における状況を把握するため、令和元年12月の再調査を行ったところ、再調査以降に博物館等から保管状況の申し出があったことから、改めて博物館等における保管状況の確認調査を実施した。

## 2. 調査の時期

遺骨等を保管する博物館等へ調査票を発出し、令和4年6月1日現在の状況を取りまとめた。

## 3. 調査の対象

令和元年12月の再調査で取りまとめた博物館等に加えて、再調査以降に申し出のあった夕張市石炭博物館を含めた博物館等18施設

## 4. 遺骨を保管している博物館等の数と遺骨の数

- ・遺骨を保管している博物館等の数は18施設（前回調査より+1施設）である。

（北海道博物館、北海道立埋蔵文化財センター、市立函館博物館、小樽市総合博物館、室蘭市民俗資料館、釧路市埋蔵文化財調査センター、夕張市石炭博物館、網走市立郷土博物館、苫小牧市美術博物館、紋別市立博物館、根室市歴史と自然の資料館、伊達市噴火湾文化研究所、いしかり砂丘の風資料館、八雲町郷土資料館、上之国館調査整備センター、豊浦町中央公民館、厚岸町海事記念館、東京国立博物館）

- ・個体ごとに特定できた遺骨は136体（前回調査より+3体）である。

うち、個人が特定できる遺骨はない。

- ・個体ごとに特定できなかった遺骨が8箱（前回調査と同数）に納められている。

(今回の調査において遺骨の数が増減した主な理由)

- ・新規発見による増

施設名	個体ごとに特定できた遺骨		個体ごとに特定できなかった遺骨
		うち、個人が特定できる遺骨	
北海道博物館	7体		
北海道立埋蔵文化財センター	2体		
市立函館博物館	5体		1箱
小樽市総合博物館	1体		
室蘭市民俗資料館	7体		
釧路市埋蔵文化財調査センター	9体		1箱
夕張市石炭博物館	1体		
網走市立郷土博物館	2体		
苫小牧市美術博物館	3体		
紋別市立博物館	1体		
根室市歴史と自然の資料館	14体		5箱
伊達市噴火湾文化研究所	70体		
いしかり砂丘の風資料館	2体		1箱
八雲町郷土資料館	1体		
上之国館調査整備センター	5体		
豊浦町中央公民館	1体		
厚岸町海事記念館	4体		
東京国立博物館	1体		
計 18施設	計136体		計8箱

## 5. 個体ごとに特定できた136体について

### (1) 博物館等が保管に至った時期・経緯

#### ①時期

昭和23年から平成30年までの期間に保管に至った遺骨が131体(約96%)ある。また、明治時代に保管に至った遺骨が1体(約1%)、保管に至った時期が不明の遺骨が4体(約3%)ある。

## ②経緯

地方公共団体等による発掘調査により出土した遺骨が92体（約68%）、寄贈が7体（約5%）、他者からの寄託が14体（約10%）、その他の経緯が16体（約12%）ある。また、保管に至った経緯が不明の遺骨が7体（約5%）ある。

## 6. 発掘・発見された経緯等（個体ごとに特定できた136体）

### （1）経緯

工事又は地質調査により出土した遺骨が19体（14%）、地方公共団体等による発掘調査により出土した遺骨が97体（約71%）、不時発見された遺骨が5体（約4%）ある。また、その他の経緯又は経緯が不明の遺骨が15体（11%）ある。

### （2）発掘・発見主体

地方公共団体等が発掘・発見した遺骨が94体（約69%）、個人が10体（約8%）、その他が21体（約15%）、発掘・発見した主体が不明の遺骨が11体（約8%）ある。

### （3）発掘・発見された場所

北海道が113体（約83%）、その他の地域が14体（約10%）、発掘・発見された場所が不明の遺骨が9体（約7%）ある。

## 7. 博物館等に保管されている遺骨の状況（個体ごとに特定できた136体）

### （1）遺骨の部位

全身骨が69体（約51%）、頭骨が48体（約35%）、四肢骨等が5体（約4%）、その他（歯など）が14体（約10%）ある。

### （2）遺骨の帰属年代

江戸時代以前の遺骨が98体（約72%）あり、江戸時代頃から明治時代の遺骨が4体（約3%）ある。帰属年代が不明の遺骨が34体（25%）ある。

### （3）副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨は87体（64%）ある。

### （4）展示の有無

展示されている遺骨はない。副葬品については、一部展示されているものがある。

#### **(5) 遺骨の保管方法**

木製の箱に保管されている遺骨が65体(約48%)あり、紙製の箱に保管されている遺骨が57体(約42%)、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が10体(約7%)、その他が4体(約3%)ある。

#### **(6) 文化財の認定の有無**

文化財に認定された遺骨が92体(約68%)あり、認定されていない遺骨が43体(約31%)、不明が1体(約1%)ある。

### **8. 個体ごとに特定できなかった8箱について**

#### **(1) 博物館等が保管に至った時期・経緯**

##### **①時期**

8箱全てが、昭和40年から平成29年までの期間に保管に至ったものである。

##### **②経緯**

地方公共団体等による発掘調査により出土した遺骨が1箱(約13%)、他者からの寄託によるものが7箱(約88%)ある。

#### **(2) 発掘・発見された時期・経緯等**

##### **①時期**

戦前において発掘・発見された遺骨が1箱(約13%)あり、戦後において発掘・発見された遺骨が2箱(25%)ある。また、発掘・発見された時期が不明の遺骨が5箱(約63%)ある。

##### **②経緯**

工事や地質調査等に伴う遺骨が5箱(約63%)、発掘調査の結果発見された遺骨が1箱(約13%)あり、不時発見された遺骨が1箱(約13%)ある。発掘・発見された経緯が不明の遺骨が1箱(約13%)ある。

##### **③発掘・発見主体**

地方公共団体等が発掘・発見した遺骨が1箱(約13%)、個人が1箱(約13%)、その他が5箱(約63%)、発掘・発見した主体が不明の遺骨が1

箱（約13%）ある。

#### ④発掘・発見された場所

北海道が3箱（約38%）あり、その他地域が5箱（約63%）ある。

### （3）博物館等に保管されている遺骨の状況

#### ①遺骨の部位

全身骨が5箱（約63%）、頭骨が1箱（約13%）、四肢骨等が1箱（約13%）、その他が1箱（約13%）ある。

#### ②遺骨の帰属年代

江戸時代以前の遺骨が1箱（約13%）、江戸時代頃から明治時代の遺骨が2箱（25%）ある。帰属年代が不明の遺骨が5箱（約63%）ある。

#### ③副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨が1箱（約13%）に納められている。地方公共団体により文化財に認定された出土品である副葬品はない。

#### ④展示の有無

展示されている遺骨及び副葬品はない。

#### ⑤遺骨の保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が7箱（約88%）、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が1箱（約13%）ある。

#### ⑥遺骨の文化財への認定の有無

地方公共団体により文化財に認定された出土品である遺骨はない。

博物館等におけるアイヌの人々の遺骨の保管状況の再調査結果（改訂版）増減表

前回再調査(令和元年12月取りまとめ) 計17施設			今回確認調査(令和4年6月取りまとめ) 計18施設				
施設名	個体 特定 (体)	特定 不可 (箱)	個体 特定 (体)	特定 不可 (箱)	増減内訳		主な増減理由
					個体 特定	特定 不可	
北海道博物館	7		7				
北海道立埋蔵文化財センター	2		2				
市立函館博物館	5	1	5	1			
小樽市総合博物館	1		1				
室蘭市民俗資料館	7		7				
釧路市埋蔵文化財調査センター	9	1	9	1			
夕張市石炭博物館	0		1		1		館内再調査により判明
網走市立郷土博物館	2		2				
苫小牧市美術博物館	3		3				
紋別市立博物館	1		1				
根室市歴史と自然の資料館	14	5	14	5			
伊達市噴火湾文化研究所	70		70				
いしかり砂丘の風資料館	0	1	2	1	2		館内再調査により判明
八雲町郷土資料館	1		1				
上之国館調査整備センター	5		5				
豊浦町中央公民館	1		1				
厚岸町海事記念館	4		4				
東京国立博物館	1		1				
	133	8	136	8	3		

※（ 個体特定：同一人物の御遺骨として特定されたもの（体）  
 特定不可：個体特定ができていない御遺骨（箱） ）

※下線は今般の確認調査によって変動のあった箇所